

地域文化財総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	奈良県・宇陀市	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	宇陀市文化遺産活用推進計画	【計画の改善時期】 平成 年度	
4 実施計画期間	平成 31 年度 ～ 平成 32 年度		
5 実施計画の概要			
<p>『宇陀市総合計画』（宇陀市 平成20年3月策定）では、「地域資源を活かした産業・交流振興のまち」を掲げ、「歴史・文化資源の保全と活用」のなかで、主要施策を（1）文化財の保護・活用、（2）伝統文化の継承、（3）歴史・文化資源の整備と充実、（4）芸術文化活動の振興 を掲げている。</p> <p>（2）伝統文化の継承 では、</p> <ul style="list-style-type: none"> 各地区の歴史や風土のなかで育まれた伝統文化や祭り、民俗行事、郷土芸能の保存と育成に努めます。 保存会組織の育成、活動支援を推進し、伝統文化の継承と後継者育成を促進します。 市内に伝えられる伝統行事や地域の祭り等の新たな魅力づくりによる観光施策との連携を強化します。 <p>（3）歴史・文化資源の整備と充実 のなかにおいても</p> <ul style="list-style-type: none"> 国宝の宇太水分神社や室生寺など、地域の歴史・文化資源を活かしながら、個性的で質の高いまちづくりを推進します。 <p>このように、『宇陀市総合計画』の「歴史・文化資源の保全と活用」のなかで、「伝統文化の継承」が明記されており、本活用計画は、先の上位計画における位置づけに資するものである。</p> <p>『宇陀市総合計画』はURL (https://www.city.uda.nara.jp/kikaku/sougoukeikaku-kouki.html) に掲載されている。</p> <p>地域の文化遺産は、適切な保存継承とともに、地域の活性化等に資する役割が再認識され、その積極的な活用が望まれている。このため、地域の文化遺産を次世代へ伝承していくとともに、観光振興・地域の活性化に資することを目的として下記の事業を実施し、これらの事業を通じて地域において文化遺産を活用していくための体制の確立を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の文化遺産の保存に関すること 地域の文化遺産の普及啓発に関すること 地域の文化遺産の継承に関すること <p><地域文化遺産の後継者育成事業> 成年、学生、学童を対象にした太鼓練習や運行練習を行い、後継者を育成する。 世代を越えた地域コミュニティの醸成を図っていく。</p> <p><地域文化遺産の用具等整備事業> 地域の伝統行事において、長年使用され経年劣化が認められる用具等について、保存修理を行う。 修理後は、同行事において、今後も継続して使用し、伝統行事を継承していくものである。</p>			
6 実施体制			
<p>宇陀市が本実施計画に係る全体の企画・調整、各補助事業に係る指導等を行う。主な担当課、役割は下記のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 宇陀市教育委員会事務局文化財課：各補助事業における文化財の取扱い等に関する指導・調整等 宇陀市役所農林商工部商工観光課：観光業務に関する連携等 <p>また、補助事業は、次の団体が実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 松井地区文化遺産活用実行委員会（委員長：亀井雅之） 構成団体：松井太鼓台運行保存会、松井自治会、宇陀市教育委員会 			
7 実施計画における目標と期待される効果		別紙①のとおり	
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成30年度交付決定額： 10,946 千円	平成31年度申請額： 8,253 千円
(2) 実施事業の概要		別紙②のとおり	

9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）

市民の地域に残る文化遺産に対する関心や意識が向上し、地域の文化遺産の保存と、次世代への確実な継承をなすとともに、地域の活性化が期待できる。

「松井太鼓台」の保存修理を実施することによって、「うたの秋祭り」への当太鼓台の担ぎ出しの継続が可能となり、会員数の維持・増加が見込める。

当太鼓台の「うたの秋祭り」への担ぎ出しは、地域の子ども、高齢者はもとより、現役就業世代の若者やサポートしていただく方々など、全ての世代が連携できる重要な伝統行事でもあり、地域への愛着が増進し、世代間交流が活性化するとともに、地域への定着と郷土愛を育む効果が、大いに期待できる。また、太鼓台運行保存会をはじめとする地域内外の関係者との絆も深めることができ、更なる人材の獲得と育成にも繋がると思われる。

また、保存修理完了後には、宇陀市にも協力いただき、市内外に広く成果を発信し、観光施策のひとつとするともに、地域の各種団体と協力体制を構築しながら、「ふるさと・菟田野」の更なる活性化と発展に大きく寄与していくものと思われる。

また、行政と各地域の無形文化財保持団体、また、団体同士による連携・協力体制を構築することができ、各行事への来訪者数の増加が見込める。『宇陀市総合計画 後期基本計画』（平成25年）では、平成29年度の宇陀市内への観光客数は140万人を目標とし、この人数を達成（141万人、宇陀市商工観光課調べ）している。

市内の「秋祭り」のなかでは、宇太水分神社・惣社水分神社の秋祭り（うたの秋まつり）の来訪者が最も多く、平成30年度の本祭には約2,500人（宇陀市商工観光課調べ）が当地を訪れている。

当事業の成果を公表・活用することによって、宇太水分神社・惣社水分神社の秋祭りには、さらに来訪者の増加が見込め（平成33年度目標 2,700人）、その他の市内の「秋祭り」も来訪者の増加が想定できる。

10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）

事業概要：	
事業概要：	
事業概要：	

11 「文化財保存活用地域計画」の作成・認定や「文化財保存活用大綱」の策定、「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等

地域社会全体で文化財を適切に保存・活用する機運を醸成し、「歴史文化基本構想」の策定を行う（策定期間は未定）。

12 担当部局

地方公共団体 担当部局課	宇陀市教育委員会事務局 文化財課
-----------------	------------------

様式 1 - 1 別紙①

7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分 1 :	伝統文化の継承体制の維持・確立						
評価指標区分 1 :	祭礼行事等の保存会会員数、保存団体数 (具体的な指標は次のとおり)						
具体的な指標 1 :	松井太鼓台運行保存会の会員数			関連事業:	①②		
目標値 1 :	【現状値】 平成 30 年度 100 (単位) ⇒ 【目標値】 平成 32 年度 150 (単位)						
設定根拠 1 :	毎年、集まる地域住民の太鼓台運行準備者数・練習見学者数を参考に、伸び率を1.3倍に設定						
進捗状況 1 :	各年度, 状況値, 目標に対する達成率						
平成	年度	平成	年度	平成	31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度
(単位)		(単位)		(単位)		(単位)	(単位)
目標区分 2 :	地域の文化資源を活用した集客・交流						
評価指標区分 2 :	地域の祭礼行事等への入込客数 (具体的な指標は次のとおり)						
具体的な指標 2 :	「うたの秋祭り」入込客数			関連事業:	①②		
目標値 2 :	【現状値】 平成 30 年度 2,500 (単位) ⇒ 【目標値】 平成 32 年度 2,650 (単位)						
設定根拠 2 :	平成29年度市内観光客数141万人(実績)から平成33年度市内観光客数150万人(目標)の伸び率1.06倍を参考に入込客数の伸び率を1.06倍に設定						
進捗状況 2 :	各年度, 状況値, 目標に対する達成率						
平成	年度	平成	年度	平成	31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度
(単位)		(単位)		(単位)		(単位)	(単位)

